

「竜巻等突風予測情報改善検討会」の開催について

気象庁では、平成18年9月の宮崎県延岡市、同年11月の北海道佐呂間町の竜巻による被害を受け、有識者による検討会において竜巻などの激しい突風に関する気象情報のあり方とその利活用について検討するとともに、竜巻等の突風に対する監視・予測技術の開発を進め、平成20年3月から「竜巻注意情報」の発表を、平成22年5月からは「竜巻発生確度ナウキャスト」の提供を開始しました。

竜巻等の突風は、その発現時間が短く、空間的にも極めて小規模であるため、現在の科学技術を用いても現象発現の有無やその場所と時刻を的確に予測することは難しいものです。このことから、「竜巻注意情報」や「竜巻発生確度ナウキャスト」は、突風発生の可能性が通常よりも極めて高い気象状況であることを伝えることにより、突風被害の防止・軽減に資することを目的として発表されています。今般、平成24年5月6日に茨城県つくば市等で竜巻による被害が発生したことを踏まえ、気象庁では、これらの情報の現状並びに住民への伝達と利活用における課題等を整理し、今後の情報の改善に向けた検討を行うこととしました。

上記の検討を行うため、学識経験者、報道機関等から構成される「竜巻等突風予測情報改善検討会（仮称）」を開催します。検討会では、竜巻等の突風に対する監視・予測技術の高度化の可能性及び中長期的な開発の方向性を検討するとともに、竜巻等突風予測情報の発表、伝達のあり方及び住民への利活用推進策等について検討を行うこととします。

なお、気象庁では、この検討会における議論や得られた方向性について内閣府の「竜巻等突風対策局長級会議」にも報告し、意見を求めるなど、関係省庁と連携を図りながら検討を進めることとしています。

1. 検討内容

- ・ 竜巻等の突風に対する監視・予測技術の高度化の可能性及び中長期的な開発の方向性
- ・ 竜巻等突風予測情報の発表、伝達のあり方
- ・ 住民への利活用推進策

2. 検討会委員

別紙のとおり

3. スケジュール

第1回（H24年5月頃）

－現状と課題について

第2回（H24年6月頃）

－改善の方向性について、報告書骨子（案）について

第3回（H24年7月頃）

－報告書（案）について

【連絡先】 気象庁予報部業務課
（電話）03-3212-8341 内線 3119
直通 03-3211-8302

竜巻等突風予測情報改善検討会 委員 (◎：座長)

◎新野 宏 (東京大学 大気海洋研究所長)

井田 隆一 (真岡市長)

市原 健一 (つくば市長)

牛山 素行 (静岡大学 防災総合センター准教授)

小林 文明 (防衛大学校 地球海洋学科 教授)

酒井 泰吉 (日本放送協会 災害・気象センター長)

田中 淳 (東京大学 総合防災情報研究センター長)

谷原 和憲 (日本テレビ放送網 報道局ネットワークニュース部長)

田村 幸雄 (東京工芸大学 工学部建築学科 教授)

野田 徹 (国土交通省 水管理・国土保全局 防災課長)

藤山 秀章 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付 参事官 (調査・企画担当))

山口 英樹 (総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課長)

渡邊 元尚 (国土交通省 大臣官房参事官 (運輸安全防災))

※ 今後、メンバーが追加となる可能性があります。